



九州工業大学長 三谷 康範

九州工業大学ビジョン2040の策定にあたって

本学は1909年に開学した私立明治専門学校を前身とする、国内屈指の歴史と伝統を持つ国立大学です。建学の精神「技術に堪能なる士君子」の理念のもと、これまで7万人を超える技術に精通したエンジニアを育成し、産業界をはじめとする社会の発展に貢献してまいりました。九工大ビジョン2040はこうした本学の持つレガシーを大切に、かつ本学技術の先進性を際立たせ、また、2040年の日本の国立大学が置かれた状況も踏まえ、本学が2040年に在りたい姿を示すことを目指しました。

令和7年1月に示された中央教育審議会大学分科会・高等教育の在り方に関する特別部会の答申案では、大学入学者の数は、2021年に62.7万人であったものが2035年までに59.0万人に漸減し、そこから急激に減少し2040年には46.0万人になり、実に27%の減少となる衝撃的な数字が発出されました。これを受けて、教育研究の質の向上による我が国の「知の総和」（数×能力）の向上が必須であることが謳われています。

九工大ビジョン2040の作成過程において、大学が置かれた厳しい状況を共有するとともに、学内の教職員並びに学生を巻き込んだ多くの対話やワールドカフェ方式の意見交換の機会を設け、本学が持つDNAと多くの先進技術の特徴を踏まえて、2040年に目指したい姿を共有しました。

このような中、皆の想いが通じて、令和7年1月に本学は国内25の研究大学群であるJ-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）の1つとして採択されました。またその少し前には大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業に採択され、グローバルな多文化共修の環境が整備されていきます。まさに研究力と教育力を両輪で強化して本学の知の総和を高め、ビジョンを実現するための環境が整ったといえます。

このビジョンには、教職員がそれぞれの立場で、本学が目指すべき姿を実現すべく教育研究、社会貢献及び法人の組織・経営に関する17のアクションを設定しています。

これらのアクションの実行とともに、世界にインパクトを与えるイノベーション創出大学となることを目指します。

（2025年3月）